



発行所：日刊建設工業新聞社
 〒106-0021 東京都港区東新橋2-2-10
 電話03(3433)7151 http://www.decn.co.jp/
 日刊建設工業新聞社 2018
 編集 電話03-3433-7151 mail-ed@decn.co.jp
 印刷 電話03-3433-7152 mail-sa@decn.co.jp
 広告 電話03-3433-7154 elivo@decn.co.jp

THE DAILY ENGINEERING & CONSTRUCTION NEWS

日刊建設工業新聞

4月24日 火曜日

2018年(平成30年)

第19413号

(第3種郵便物認可)

合 総

オランダは4分の1が海面下という低平地の国である。舟運や低水路の工事の指導を受けるのは納得できるが、日本の川は滝だとデレーケが驚いたというなど、日本とオランダとは自然条件がまったく違う。なぜ、オランダ人の技術指導を受けなければならなかったのか不思議である。確かに最も若かったデレーケは、日本に来てから現地調査を重ねて、日本の河川のことを精力的に勉強し研究したことは事実である。

日本の治山・治水の第一人者、市川義方はデレーケ批判の書として『水理真宝』を著した。淀川上流の砂防事業でデレーケの砂防施設は少しの雨で壊れてしまった。これに対し市川義方の砂防施設は、日本の伝統工法で造られていてびくとも

明治維新150年と治水の歴史

竹林 征三

〈8〉悔しい思いをした面々

面を狭め何度も破堤洪水を繰り返してきた。オランダの初め、田上山は完全なげ山であった。田上全七賢人の知恵と熱情を結集し、100年の歳月をかけてようやく緑の山をよみがえらせたのである。愛宕町の西川作平は何度も失敗を重ね、ようやく土壌が流出した山にも根付くヒメヤシヤブンを発見。「ハゲシバリ」と命名した。

面を狭め何度も破堤洪水を繰り返してきた。オランダの初め、田上山は完全なげ山であった。田上全七賢人の知恵と熱情を結集し、100年の歳月をかけてようやく緑の山をよみがえらせたのである。愛宕町の西川作平は何度も失敗を重ね、ようやく土壌が流出した山にも根付くヒメヤシヤブンを発見。「ハゲシバリ」と命名した。

面を狭め何度も破堤洪水を繰り返してきた。オランダの初め、田上山は完全なげ山であった。田上全七賢人の知恵と熱情を結集し、100年の歳月をかけてようやく緑の山をよみがえらせたのである。愛宕町の西川作平は何度も失敗を重ね、ようやく土壌が流出した山にも根付くヒメヤシヤブンを発見。「ハゲシバリ」と命名した。

面を狭め何度も破堤洪水を繰り返してきた。オランダの初め、田上山は完全なげ山であった。田上全七賢人の知恵と熱情を結集し、100年の歳月をかけてようやく緑の山をよみがえらせたのである。愛宕町の西川作平は何度も失敗を重ね、ようやく土壌が流出した山にも根付くヒメヤシヤブンを発見。「ハゲシバリ」と命名した。

面を狭め何度も破堤洪水を繰り返してきた。オランダの初め、田上山は完全なげ山であった。田上全七賢人の知恵と熱情を結集し、100年の歳月をかけてようやく緑の山をよみがえらせたのである。愛宕町の西川作平は何度も失敗を重ね、ようやく土壌が流出した山にも根付くヒメヤシヤブンを発見。「ハゲシバリ」と命名した。

面を狭め何度も破堤洪水を繰り返してきた。オランダの初め、田上山は完全なげ山であった。田上全七賢人の知恵と熱情を結集し、100年の歳月をかけてようやく緑の山をよみがえらせたのである。愛宕町の西川作平は何度も失敗を重ね、ようやく土壌が流出した山にも根付くヒメヤシヤブンを発見。「ハゲシバリ」と命名した。

面を狭め何度も破堤洪水を繰り返してきた。オランダの初め、田上山は完全なげ山であった。田上全七賢人の知恵と熱情を結集し、100年の歳月をかけてようやく緑の山をよみがえらせたのである。愛宕町の西川作平は何度も失敗を重ね、ようやく土壌が流出した山にも根付くヒメヤシヤブンを発見。「ハゲシバリ」と命名した。

面を狭め何度も破堤洪水を繰り返してきた。オランダの初め、田上山は完全なげ山であった。田上全七賢人の知恵と熱情を結集し、100年の歳月をかけてようやく緑の山をよみがえらせたのである。愛宕町の西川作平は何度も失敗を重ね、ようやく土壌が流出した山にも根付くヒメヤシヤブンを発見。「ハゲシバリ」と命名した。

週1回掲載